

「おやこ一冊読書」のすすめ ～わがや・わたしの「宝本」～

宝本

絆を深め、感動を味わい、自分を見つめる大切な一冊を「宝本」と呼んでいます。

「宝本」は成長に応じて、次のように広がっていきます。

わがやの宝本「もこもこもこ」

息子を出産する前にいただいた本です。「もこ」「によき」といった擬音の言葉しか出てこず、初めは頭の中で「？」がいっぱいで、不思議な本だなと感じました。お腹にいる息子は、反応して、動く時がありました。

誕生してから、息子への読み聞かせが始まり、デビュー作です。強弱をつけて読んであげたり、「ぱく」の所は、お腹を食べようと動作を加えてみたり、ページをめくる楽しさがいっぱい、息子も大喜びでした。何度も何度も手にして、今ではボロボロになってしまいましたが、私と息子の思い出がたくさんつまっている「宝本」です。

おやこ一冊読書による、
おやこのふれあいの中で生まれます。

- ・親子で読んで、楽しいひと時を過ごせたら・・・。
- ・親子で感じたことを語り合えたら・・・。
- ・子どもが繰り返し読んでほしいと言ったら・・・。

など



楽しみながら読み、

感動することで生まれます。

- ・主人公になりきって、夢中で読める本に出会えたら・・・。
- ・心をゆさぶられる本に出会えたら・・・。
- ・びっくりするような新しい知識に出会えたら・・・。

など



わたしの宝本「エルマーのぼうけん」

ぼくの宝本は、「エルマーのぼうけん」です。

エルマーは、どうぶつ島にりゅうの子どもを救いに出かけます。

どうぶつ島で、エルマーが持ってきたいろいろな道具を使った作戦で、動物たちを相手にしていく場面では、心ぞうがドキドキします。でも、エルマーの作戦がうまくいくと、おもわずぼくもホッと、わらってしまいます。

ぼくは、今まであまり本を読むことが好きではありませんでした。でも、本を読むとこんなにハラハラ、ドキドキして楽しい気分になせると、ぼくに教えてくれた、宝物のような本です。

わたしの宝本「レ・ミゼラブル」

貧しさで、空腹に耐えきれず、たった1本のパンを盗んだだけで、何年も何年も服役することになったジャン・バルジャンが、ある司教に助けられたところから物語は始まります。

ジャン・バルジャンは、司教の真心を厚く感じ、正直な人間として生きていきます。この本を通して、司教の素晴らしさはもちろんですが、ジャン・バルジャンのその後の誠実な生き方に、自分自身について改めて考えさせられます。

じっくりと読み、

自分を見つめることで生まれます。

- ・自分の生き方を見つめることができたなら・・・。
- ・自分の将来に夢や希望を持つことができたなら・・・。
- ・ものの見方、感じ方や考え方を深め豊かにすることができたなら・・・。

など



あなたの「宝本」は、何ですか？